# 月刊　岩小舎　7月号

## ■カモシカ山行特集

6月19日(土)〜6月20日(日)

### 講習(遠足・本科合同)／御前山〜日の出山

**◆メンバー**:工藤(講師)、岩本一郎、伊藤稔、小林幸恵、福島彰男、遠足4名
**◆記録**　:小林幸恵

ワケあって、24 期カモシカ初体験組は、遠足と合同での山行となりました。

奥多摩駅集合、駅前からバスで奥多摩湖まで。その後、管理棟の灯りを頼りに、あの有名な小河内ダムを渡り登山口へ。いざ、カモシカ山行開始。

御前山を目指して、大ブナ尾根を登る。すぐに、梅雨時の多湿な空気に悩まされ始める。それと、夜なんですよね、当然。つまり、いわゆる夜行性動物の活躍する時間帯でした。ヘッ電めがけて、バサバサッと、蛾が飛び込んできました。次々と、消灯するまでずうっと、ずっと。小型でしたが蛇も我々を歓迎してくれましたし、鹿説もありましたが、結局鳥類だろうと結論された鳴き声が、行く先々で聞けました(こっちに来ないで、こっちに来ないでって)。山は夜も眠っていない。我々は彼らにとっては、ただただ迷惑なだけの闖入者でありました。

御前山避難小屋では、ライトプランを尊重して屋根の下で休ませて頂きました(すみません、シビアなカモシカを実践なさった本科のお仲間)。しばらくすると、汗に濡れた服が冷えてきて、だんだんと、寒さに震えるようになる。なんとか着干しようと我慢。しかし結局、寒さに耐えられず、周りへの迷惑もかえりみず、カサコソと音と立てて防寒着を着込んで、暖を取ってほっとする間もなく、今度はツェルトの中が湿り気でベタベタに濡れてきます。寒いのに暑い！こんなのアリかよー、もう堪忍して頂戴、助けてお願い、気持悪いよーとのたうちまわっていたら、そのまま眠っていたらしく、気がついたら朝 4 時の起床の時間でした。ホッ！

梅雨の晴れ間の、絶好の晴天の奥多摩で、御前山、大岳山、御岳山、日の出山からつる

【今月の目次】

■カモシカ山行特集
【講習】御前山〜日の出山　1
【自主】八ヶ岳南北縦走　2
八ヶ岳北南縦走　3
西原峠〜高尾山　4
三峰〜雲取山〜石尾根縦走　5
奥秩父主脈全山縦走　7
■山の学習帳 No.2 〜磁北線の引き方その2〜　9
■講習山行　丹沢寄沢／滝郷沢左俣　10
■自主山行
奥多摩多摩川／水根沢　10
奥多摩日原川／鷹ノ巣谷　11
奥多摩矢沢／熊倉沢左俣(西沢)　12
奥多摩矢沢／熊倉沢左俣(東沢)　12
谷川岳・一ノ倉沢／烏帽子沢奥壁　南稜　13
谷川岳・一ノ倉沢／衝立岩　中央稜　14
奥多摩惣岳山／シダクラ沢　15
岳嶺岩　A1トレーニング　15
日和田　RCT　16
奥多摩盆堀川／石仁田沢　17
広沢寺　RCT　18
越沢バットレス　RCT　18
丹沢四十八瀬川／小草平ノ沢　19
■今月の TIPS No.4　〜ロワーダウン〜　17
■こちら技術委員会　20
■編集室だより＆会員一言集　21
■6月の山行一覧・8月号の予定　22

つる温泉まで、サウナなみの大汗をかきました。サウナ嫌い、暑いの大の苦手な私には、今度の山行は実質、夏山サバイバル以上でした。

追伸：長谷川カップの道標も見学できて、すこし時代の先端もノゾイテシマイマシタ。

【行程】
6 月 19 日
登山口(20:00)～御前山(23:20)～御前山避難小屋(23:40) 仮眠
6 月 20 日
避難小屋(5:00)～大岳山(8:50)～御岳山(11:00)～日の出山(12:05)～林道(13:05)

**6 月 18 日(金)～6 月 20 日(日)**

## 単独カモシカ／八ヶ岳 南北縦走

◆ **メンバー・記録**：伊藤幸雄

昨年から計画していたものの中々単独で夜歩く勇気がでてこなく躊躇していたが、研究生にもなったことだし、ここは一歩踏み出して実行することにした。

コースは編笠山から権現岳、赤岳、横岳、硫黄岳、天狗岳、中山、丸山、茶臼山、縞枯山、横岳、蓼科山を登る南北縦断ルート。

18 日(金)22:00 小淵沢駅に到着しタクシーで観音平に向かう。

準備を行い 23:00 に編笠山に向かって登り始めた。天候は曇り、やや霧がかかっているような状態であった。山道がはっきりしているので迷う心配はないと思っていたが、やや広い個所にくると踏み跡がいっぱい出てきてどの方向に行くか迷ってしまった。多分昼間であれば一目瞭然に先が見えて方向がわかるのだと思うが、夜だと見通しが利かない。意外と簡単なところほど夜は怖さをもっているな～と感じる。ここはコンパスを信じて示す方向に歩くと暫らくすると木に掛かっている赤テープが見えた。コンパスの偉大さを改めて感じる。その後も何回か似たようなことはあったがコンパス通り進むと自然と赤テープが後ろからついて来た。

編笠山頂上近くになると雲が切れて空には星が見えてきた。星空に向かって登るシルエットはまるでブラックダイヤモンドのパンフレットみたいだと自画自賛してしまう。

編笠山 AM1：30 に到着し権現岳に向かうが青年小屋までの岩道が意外と厄介。石に書かれている矢印がなかなか見え難く、コンパスだけで進むと大きな石にぶつかり先が閉ざされ落下しそうになる。慎重に周りを見渡し矢印をみつけ山道に戻る。3 時半ごろになると薄明るくなり権現岳を通過して長～い梯子に遭遇した。100m 以上ありそうな梯子を風に吹かれながら降りる。ここはあまり気分のいいところではないので明るい時間に通るのをお勧めする。

7：00 に赤岳を通過し、横岳、硫黄岳と進む。天気は晴天、気分よく硫黄岳のケルンにもたれながら地図をみているとスーと眠気が襲ってきた。ハッとして目を覚ます。長い休憩はまずい、まずい。

早速、北八ヶ岳最初の天狗岳に向かうが、夏沢峠に降りてまた天狗に登るかと思うと気が重くなる。結局、北八ヶ岳は最後まで登っては降り登っては降りの連続で同じ高度を上がったり下がったり、最後までブツブツ言いながら歩いていた感じがする。

天狗岳 13：00 着、足が重い。中山峠に降り、高見石に向かうが途中の中山から高見石までのダラダラ石山道がいやになるほど長い。

16：00 高見石小屋に着く。ボーッとしてきたので、予定を変更してここでビバーグすることにした。ビバーグ準備していたら、逆から攻めている横川、浅村組と会う。やはり、仲間に会うのは元気が出てくるもので、「残り、がんばらない」と自分自身に力づける。

20 日 AM2：30、高見石を出発。天候は風強く霧がかかり、先が見えにくい。しかし、森林の間を進むのである程度風は防げると思いスタートした。

茶臼岳 4:00、横岳 7:00 と進んだが、その間、強風、小雨は止むことはなかった。

最後の蓼科山を登り始めたころにやっと風が止み始め雲が切れはじめたが、頂上は依然とガスって風が強かった。

結局、八ヶ岳最終日は一回も景色を見ることが出来なかった。多分、天候がよければ雨池峠から横岳、蓼科山のコースは木々の匂いを感じながら気持ちよく歩けるルートかもしれない。

ちょっと残念な気持ちを感じながら 11:00 蓼科牧場に下山し終了した。

【行程】
6月18日
観音平(23:00)～編笠山(1:30)
6月19 日
～赤岳(7:00)～硫黄岳(11:00)～高見石(16:00)ビバーグ
6月 20 日
高見石(2:30)～茶臼岳(4:00)～横岳(7:00)～蓼科牧場(11:00)

**6 月 19 日(土) ～6 月 20 日(日)**

## 八ヶ岳　北南縦走

**◆メンバー**： 横川秀樹(L)、浅村和史
**◆記録**　　:浅村和史

7:55 出発、蓼科山に登り始める。速すぎはしないと思われるペースにした(結局維持はできなかったが)。途中、南の方角を見るとはるか彼方に横岳や赤岳の山並みが見えた。小さい。あんなところまで登り降りを繰り返しながら歩くなんてどうかしているのではないだろうか。しかも、今そちらの方向に向かっていない。双子山を越え、北横岳までは順調。しかし、頂上で出会った人が疲れた顔の僕を見て「その道だけは登りたくないよね」。そうだったのか。そしてその後、三つ岳の岩つづきの道あたりから疲れを感じ、縞枯山・茶臼山あたりまで中だるみ。下りになったところでストックを使い始めた。初めてのストックはどうも使いにくい。ストックを前に持っていこうとすると腕が疲れるし、膝への助けにどれほどなっているのかよく分からない。コツがつかめるまで使ってみることにする。

麦草峠で水袋にポカリスエットを補給し、今までの単なる水に味がついた。予定より早く着いたので長めに休みを取り、丸山へ向かう。自分では気づかなかったが、ペースが少しアップしたらしい。休んだから? 日が傾き始め、涼しくなってきたから? 高見石小屋では直前に着いてツェルトを張り、ビールを用意したという伊藤さんに会った。いくら伊藤さんが前日夜から歩いてきたとはいえ、まだ 4 時間ぐらい歩く必要がある人と今から寝られる人。なんだかくやしい。結局その後さらにスピードアップした。

中山を越え東天狗に着くと夕闇が降りてきた。しかも、風が強く寒い。地図には八ヶ岳随一の展望などと書いてあるが、風に追い立てられながら降りる。風に吹かれない場所で防寒具を身につけ、根石岳を越えると暗くなってしまった。オーレン小屋でツェルトを張る。

夜中に何度か雨が降った。台風 6 号のこともあって良い気がしない。明日の山行はいったいどうなるのか。濡れねずみ? 2 時半頃に起きると雨ではなく、少しだけ気が晴れた。風が強く、暗いうちに稜線に出ない方が良さそうだったのでゆっくり歩く。ちょうど森林限界を越えるあたりで懐中電灯が要らなくなったが、あたりは白い霧に包まれ視界は良くない。そして、稜線上は予想どおり強風が吹き荒れていた。こんな強風の、しかも突風が混じっている中でよく人間は立っていられるな、などと考えながら進む。ストックが役立っているような気もした。ペースは落ち、地図上のコースタイムと変わらない。硫黄岳から横岳、赤岳まで西からの強風に吹かれ続けた。赤岳を過ぎると阿弥陀岳があるためか、強風はおさまり、視界もひらけ、明るくなる。目標物が全く分からず目の前の道を進むだけの状態だったのが、突然旭岳や権現岳が見え始め、いつ終わるとも知れない山行の先が見えてきた。編笠山への登山道など、見た目にも実際にも

緩い傾斜でもう終わったかのようだった。最後は緩い緩い下りで天気も良くなってゆき、飽きたころに駐車場に着いた。

行動時間は初日 11 時間 55 分、二日目 9 時間 12 分、計 21 時間 7 分だった。

【行程】

| 6月19日 | 到着 | 出発 | 予定 |
|---|---|---|---|
| 観音平 | | 6:50 | (6:30) |
| 蓼科山登山口 | 7:40 | 7:55 | (7:30) |
| 蓼科山 | 9:20 | 9:25 | (10:00) |
| 双子山 | 10:35 | 10:45 | (11:30) |
| 北横岳 | 12:23 | 12:35 | (13:30) |
| 雨池山 | 13:41 | 13:47 | (14:50) |
| 縞枯山 | 14:17 | 14:30 | (15:30) |
| 茶臼山 | 14:55(通過) | | (16:00) |
| 麦草峠 | 15:35 | 15:55 | (17:00) |
| 丸山 | 16:33(通過) | | (17:50) |
| 高見石小屋 | 16:45 | 16:55 | |
| 中山 | 17:39 | 17:50 | (19:00) |
| 東天狗 | 18:50(通過) | | (20:30) |
| 根石岳 | 19:17(通過) | | |
| オーレン小屋 | 19:50 | | (22:00) |

※観音平⇒蓼科登山口はタクシー

| 6月20日 | | | |
|---|---|---|---|
| オーレン小屋 | | 3:13 | (3:00) |
| 赤岩の頭 | 4:05 | 4:15 | (4:00) |
| 横岳 | 5:22 | 5:25 | (5:30) |
| 赤岳 | 6:45 | 7:00 | (7:00) |
| 権現岳 | 9:30 | 9:40 | (10:00) |
| 編笠山 | 10:50(通過) | | (12:00) |
| 観音平 | 12:25 | | (14:00) |

お知らせ

**メーリングリストのご紹介**

無名山塾の本科、研究生、同人、講師の連絡用に sanjc2004 メーリングリストが運営されています。現在、本科生 7 人、研究生 11 人、同人 3 人、講師 3 人が登録しています。登録がまだお済みでない方は是非登録の申し込みを下記アドレスまでお願いします。

sanjc2004@yahoo.co.jp

**6 月 19 日(土)～6 月 20 日(日)**

## 西原峠～高尾山

**◆メンバー**: 黒田記代(L)、伊藤栄子(SL)、阿出川忍、斉藤典子
**◆記録**　: 斉藤典子

**えっ？寝ないで歩くのぉ～？？？**

黒田さんからこの計画を持ちかけられたとき、そして武蔵五日市駅に 18:00 に到着しても「道に迷っていないなら数時間でも寝た方がいいよ」と私はまだこう言っていた。「頑張ろうネッ！」と黒田さんはやさしく笑顔で励ますが目は真剣だ。はぁ～やるっきゃないかぁ！

昨年の続きとなった槙寄山登山口へタクシーで 19:00 到着。現在位置と高度を合わせ 19:20 スタート。人家の脇の茶畑の道をずんずん登るが、ふみ跡のようでそうではないっ。これが里山のむずかしいところだ。

タップリ汗をかきかき登って登山道に出たところで私が先頭を歩かせてもらうことになった。パーテイーが分かれるのはいやだった。超ド近眼で見えないものが見え、肝心なものが見えないのでビクビクかと思っていたら自分のペースで歩けることの心地良さよ、さぁみなさん私についてきて！あっ、ふかふかしてきた外れたかな･･･おっ、踏み固めた道だ･･と靴底の感覚が鋭くなったような気がする。私が登山道を外しかけると、

後ろから「右の方がいいヨ」とか「あらっこれ左だわ～」と声をかけてくれるのも安心な気分。

50 分歩いて 10 分の休憩を繰り返す、笹尾根は歩きやすい。浅間峠を 12:18 に到着。15 時間歩く予定のまだ 3 分の 1 しか歩いてない、みんな無言になってきた。休憩の度に足のカカトをいたわり、ストレッチしたりね。でも、誰も弱音を見せない。とりあえず生藤山まではゼッタイ歩くぞ、と自分で目標を決める。熊倉山の小さな頂上でヘッドランプを消して街の灯りを眺めた午前 1:22（街の灯りがとてもきれいねぇ～♪・・と歌おうかと思ったが呑み込んだ）。ポツリポツリと雨が落ちてきた。樹林帯の中なので雨は気にならず、台風が近づいている影響か吹く風も冷たく、昨年のカモシカの時のような重たい暑苦しさがないのは救いである。

生藤山を 2 時過ぎに巻く。もう、寝ないで歩き続けられると思った。連行峰を過ぎ山の神の下りが岩になり緊張して歩くので眠気も出ない。雨も上がったようだ。醍醐丸を過ぎた辺りから気の早い鳥が鳴き始めた。4:05 朝はまぁ～だだよぉ。

4:47 和田峠着。夜が明けて明るくなって来るとまた別な山行に移ったような気がした。昨晩から私たち以外の人間に出会っていない(会うのもちょっと・・ネ)最初にどんな人に会うのかしらん。陣馬山を 5:15 に過ぎて出会ったのはテンガロンハットを被った男性ハイカーだった。そして続々やって来る元気そうな早朝のランナー！そうだよね～長谷川カップのコースだもん。足の裏もヒリヒリしてきたので出来るだけ急登はさけて巻き道を選んで歩き続ける。台風はどっかに行っちゃったみたいに陽射しがジリジリと暑かった。小仏峠、城山そして高尾山に到着 10:27。

「やったぁ～」と頂上で握手してはしゃぐ私たち。全員無事に 15 時間寝ないで歩き通せた！やればやれるもんだ、4 人いたから頑張れた。こんなに歩けてすっごくうれしかった。

◆山行を終えて思ったこと

① 夜、道に迷っていないなら仮眠せず、登山道を歩き続け下山する。
② ビバークしても眠れなかったかもしれない、獣たちの目が光る(タヌキかな)安眠を邪魔して睨まれる。うなり声も聞こえた。
③ 道標が「登るのならこっち」「巻き道ならこっち」「バス停ならこっち」「○△山まであと何キロ」などなどまぎらわしいくらい出てきた。

みなさん、おつかれさまでした。そしてありがとう！カモシカトレーニング卒業バンザイ！

【行程】
槙寄山登山口発(19:20)～西原峠(20:46)～笹ダワ(21:20)～笛吹峠(22:00)～土俵岳(23:16)～浅間峠(12:18)～熊倉山(1:22)～連行山(2:37)～醍醐丸(4:06)～和田峠(4:47)～陣馬山(5:15)～明王峠(6:19)～景信山(7:50)～小仏峠(8:10)～城山(8:45)～高尾山着(10:27)

**6 月 19 日（土）～6 月 20 日(日)**

## 三峰～雲取山～石尾根縦走

**◆メンバー**：山野美香(L)、山野昭人
**◆記録**　：山野昭人

11:00 過ぎに自宅を出発。今回リーダーの田口さんは仕事の都合で来られなくなってしまった（とても残念！）。

秩父鉄道の終点三峰口からはタクシーを利用した。「これから雲取までですか。この辺から登ると近いそうですよ」と別のコースを教えてもらうも「今日は夜間歩行訓練なので早く着いちゃうと困るんです」「あはは、そうなんですか。」笑いながら三峰山ロープウェイの割引券を出してくれた。気持ちの良い運転手さんだった。数年前に廃校になったという小学校の前を通ったとき、「この村は去年１人しか子供が生まれなかったんですよ。年々子供が少なくなってね・・・」と少し寂しそうに話してくれた。

ロープウェイの駅には当然のごとく乗客は無し。「これから雲取までですか。大変ですね」「今日は夜間歩行訓練なんです。」会う人毎に説明が必要だ。山頂駅でも同様の会話。「熊が出てるから気をつけてね。」と心配された。

神社のような立派なトイレに感心しながら歩き出す。台風接近の影響か渡る風もさわやかで、前回・前々回のカモシカ山行の時のような梅雨時期特有の鬱陶しさがなく、気持ちの良い山行になりそうだ。

秩父宮様がこのコースを歩いたとの事で、休憩所やベンチが頻繁にあり道も広い…と前を見ると「熊出没注意」の黄色い看板。「そろそろ鈴だそうかな。」と私。「えっ、鈴持ってきてるの？（そういうことにはよく気がまわるのねーと呆れ顔）。こんなところに出るわけないでしょう。まだ人里だから大丈夫よ。」「そ、そうだよね。」

霧藻ヶ峰（殿下命名）休憩所を通過すると小屋の中から人が飛び出してきた。「まだ来る人いますか」「（居るわけないし、知るわけないと思いつつも）いないと思います」とにこやかに答えた。一人で小屋番というのも寂しいものだ。

まもなくお清平に到着。会社の知人がビバーグした際に、夜中に女の人の笑い声に悩まされたという曰くつきの場所だ。どんなに薄気味悪いところかと期待(?)していたが、広々とした気持ちの良いコルだった。カナダ人の 3 人組が居たのでしばし歓談する。「どこまで行くのですか」「行ける所までです」「ほんと？」そんな会話の後、しっかり岩崎さんの宣伝と無名山塾のホームページアドレスを教えて別れた。秩父に住んでいるそうな。

さて、いよいよ鈴を出して歩きはじめる。「白岩山の肩」の看板が出てきたので、30 分も歩けば白岩小屋かと思ったが、ここからが長かった。前白岩山を過ぎ小屋に着いたらまた人が出てきた。小屋番 1 人でさびしいのかな。話の種が無いので質問してみた。「熊でていますか」「熊がでるのは標高 1000m 前後の下のほうだよ。この辺まで来ると年に 2～3 回みるかどうかだね。」「……」 標高 1000m 前後といえば三峰神社の辺りじゃないか！　結局最も熊が出没している所を鈴無しで通過したのだった。とりあえず熊の心配は薄らいだ。その代わりというわけではないが鹿が多い。行程中 5、6回は目撃した。

芋ノ木ドッケを抜けるころから雲取付近の尾根の感じになってきたが、この辺からライトを点灯。漸く暗くなってきたが、雲取山避難小屋に泊まるとなると夜間歩行が短くなりそうだが、とにかく行ってから考えることにした。雲取ヒュッテ前で写真撮影。雲取山荘が近づくとテントの花が咲いていた。妙に騒がしいと思ったら、山荘前でバーベキューをやっているではないか。「何かのお祭りなのかなぁ」などと話しながら水場に進んで補給をしていると、「随分遅いですね」などと心配して話しかけてくる人もいた。ここまでくれば後は以前歩いた道なので全く心配はない。唯一心配なのは中国出張での食あたりの後遺症(昭)と三ツ峠で痛めた膝の後遺症(美)だった。特に(昭)は 1 週間以上続く下痢で体力減退、お腹に力が入らず足取りもおぼつかなくなってきた。とりあえず避難小屋まで登ることにする。小屋を目にすると先に進む気力は失せていた。「リハビリ山行と言う事で許してもらおう」と言い訳をしつつも、迷わず小屋に入り込んだ。先客は7人ほど。

2 日目は一番に出発。「田口さん今日だけでも歩きに来るんじゃない」「ありうるな」と話しながら石尾根を下り始めた。鷹ノ巣山から 1 時間ほど下るとすれ違いざま「山野さん」と声をかけられた。驚いて改めてみると田口さんだった。鷹ノ巣山から稲村尾根を下って日原から奥多摩に帰るとか。やはり歩きに来たのだ。

途中 2 度も藪に駆け込んだり(昭)、膝痛が出てサポーターで固定したり(美)したが大きな問題もなく林道に到着。久しぶりの 2 人での山行となったが、以前より色々な面で自信がついてきているような気がした。

【行程】

6 月 19 日

三峰口(15:00)～三峰山ロープウェイ(15:30)～三峰神社(16:00)～お清平(17:45)～白岩小屋(19:00)～白岩山(19:30)～芋ノ木ドッケ(19:45)～雲取ヒュッテ(20:30)～雲取山荘(20:40)～雲取山(21:10)～雲取山頂避難小屋(21:20)

6 月 20 日

雲取山頂避難小屋(5:30)～七ッ石山(7:00)～鷹ノ巣山避難小屋(8:20)～鷹ノ巣山(8:50)～将門馬場(9:00)～六ッ石山分岐(9:20)～奥多摩駅(11:40)

ＪＪＪＪＪＪ 6 月 26 日(土)〜6 月 27 日(日) ＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪ

## スーパーカモシカ／奥秩父主脈全山縦走

ＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪ

**◆メンバー**：松本善行(L)、矢田実
**◆記録**　：松本善行

**〜山塾内自称「山の 非常識クラブ」企画〜**
ポイント
①…「雁峠〜山ノ神土」間の南面巻道は、沢筋数箇所、登山道崩壊に伴う堰堤建設中で、ガレ場あり。
②…虫対策。この時期はとくに「ヌカカ」と呼ばれる蚊，ブヨと同様の吸血昆虫が大群で押し寄せる(詳細は矢田氏へ)。痒みが 1 週間ほど続く。

**■ムーンライト信濃？信州？** まぁどちらでもいいんですが、韮崎駅は通過のため、やむを得ず鈍行利用。この電車でひたすら西へ向う分、歩いて戻るのかと思うと、いささかうんざり。それにしても急行アルプスが廃止になったのは痛い。予め矢田さんに予約しておいて頂いたタクシーに乗り、瑞牆山荘へ(約 1 万円)。

**■熊、出没注意！** 下車後、山荘前ランプで最初に照らした注意書きの看板。熊は夜間にも活動する、なんて誰かに聞いたような気がしたから、つい音に敏感になってしまう。前夜に降ったであろう雨はすでに止んでいるが、樹上から落ちてくる雨だれの、地面をうつ音が森の中でピトピトと反響し、幻想的な雰囲気を醸し出している。時折ガサッと、なんだろうか？出発前におちおち仮眠もしてられない。3 時発の予定ではあったが、早めの出発とする。

**■ヌカカの 攻撃、宣戦布告** すっかり夜も明け、大日小屋で小休止。頭の周り、なんか虫がブンブンうるさい。耳，鼻，口、いたる穴という穴に飛び込んでくる。大キジ打ってたら、どうやら腰のあたりにも刺されたらしく痒い。思えば「ヌカカ」との戦いの始まりであった。

**■嗚呼、北奥千丈ヶ岳** 金峰(甲州側は「きんぷ」、信州側は「きんぽう」だったかな？)，朝日，前国師と予定通り進むが、いつも横目に素通り申し訳なく(合掌)。奥秩父最高峰(2,601m)、いつになったら登る機会を得ることだろうか。

**■甲武信小屋の 仙人** それにしても国師〜甲武信間は長い。奥秩父の最深部である。甲武信を過ぎ、程なく甲武信小屋に到着。小屋の番人、山中さんは居るのかな。と視線を上げると、二階からひょこっと顔を出された。万一愛想悪くされるのがこわいので、とっさに「こんにちは。無名山塾です。メトロポリタンの懇親会、わざわざご足労ありがとうございます。」と先手をうつ。すると外に出てこられ、あれこれ会話を交わすこと十数分。

**■降りますか？** 笹平避難小屋が破不山避難小屋になっていた。名称が変わったのだろうか？そういえば、ここにまつわる怖い話を聞いたことがある。いずれR子殿に話すとしよう。しっかしヌカカがうっとうしいな。ただ、やつらは風が吹くとおそって来ない。無風でじっとしていると、たちまち囲まれる。だから、いやがをうえにも動かざるを得ないわけだ。まもなくほぼ中間、まだ明るいうちに雁坂峠に到着。ところが、矢田さんのひざの調子がよくないらしい。道標には「雲取山 27.6km」とある。まだまだ先は長い。「どうしますか？川又へ降りますか？」 エスケープとしてはそこが一番早い。今から下れば、20 時ごろには着けるだろう。しばらく選択に悩んだが、結局矢田さん曰く、「大丈夫！先へ進もう」 しかし、よくよく考えてみれば、「降りますか？」と質問するのは、あまりにも気配りが足りなさすぎたと反省。なぜなら、走破意欲むき出しの山行で、心理的に「じゃあ降りよう」とは言い返しずらいからだ。矢田さんだったから続行できたものの、一般的リーダーとしての応対の仕方としては安易であったと思う。

**■将監着かないんですけど？** 雁峠で日はとっぷり暮れ、再び暗黒の闇がおとずれる。ヌカカとの戦いも早朝までは休戦である(夜はおそってこない様子。但し今度は「蛾」との戦いだ！)。休憩中、エアリアを見て、「あと 40 分ぐらいで将監(しょうげん)峠、着くんじゃないですか」などと会話したのは 1 時間以上前だったろうか？おかしいなぁ。突然、巻道の沢筋の横断箇所で登山道が途切れる。「堰堤工事だ！」 矢田さんが叫ぶ。迂回道を発見しつつ進むが、

夜間、沢の中のガレ場通過は危険このうえない。対岸の道も、狭い視野のランプでは発見しづらい。この状況がいかに危険かは、ちょうど 3 年前の「白馬のスーパーカモシカ」(メンバー:金澤, 坂口, 松本, 矢田)で十分思い知らされている。そんなガレ場の堰堤通過が 3 ヶ所もあって、時間も長く感じたのだろう。

**■頭の 中で巡るもの**　とにかく眠い。どうしようもなく眠い。歩行中も意識が飛ぶ。自分も矢田さんも数度右の谷へ片足を踏み外し、その度に肝を冷やす。また、何度となく鹿が悲鳴のように鳴きながら走り去ってゆくのに一瞬ドキリとして覚醒はするが、すぐにまたうとうとしだす。ボーッとしながらも、頭の中は下山後の奥多摩駅前でのうちあげのことばかり考えている。そう、ビールと餃子が頭から離れないのだ。「アミノなんとかかんとか」にはもううんざりしている我々にとって、決してかなわぬ夢のような晩餐だ。

**■七ッ石のご夫婦**　再び空が白んでくる。一方、こちらも再到来ヌカカ軍団。三条ダルミで小休止。「もう、うっとうしいな～！」イライラが募る。ストレスも溜まる。七ッ石山頂で、あるご夫婦に声をかけられた。「昨夜はどちらへ泊まられたのですか？」 困った。「え～、泊まってないですぅ」「瑞牆山荘から縦走してきました。夜間もずっと。トレーニング山行で、これこれしかじか…」夫人の方は驚くも納得したようだった。なぜなら、雲取山頂付近で早朝 6 時を回ったばかりなのに、西の縦走路からデイパック背負って登ってきた我々を見かけたものだから、不思議に思っていたらしい(と私は解した)。どうも変な輩が珍しいとばかりに、夫人が「写真、一緒に撮らせてもらっていいですか？」と言う。悪い気もせずカメラの前に立つ。果たしてどう写っているかは知る由もない。

**■石尾根は 長くも 短くも**　かつて山行の度にひざが痛んだ時期があった。下山時に伴う激痛、辛さは理解できる。だから今回残り半分以上、20 時間相当を痛めた状態のまま歩き通した矢田さんには、頭が下がる思いだ。幸い故障もなく奥多摩駅を目前に、「石尾根って、ランニングだとあっというまですよ。」と言い放つ自分を振り返り、以前とはずいぶん変わったなと自覚する。テント泊で初めて雲取から縦走した時の長かったこと。あまり時間を気にせず歩いていた頃が妙に懐かしい。おそらく、この 33 時間というカモシカ山行も、ある程度は精神力の肥やしとなって、今後の自分の山行に影響, 変化をもたらすことだろう。

【行程】
瑞牆山荘(2:40)～富士見平小屋(3:30～3:50)～大日小屋(4:37～4:52)～金峰山(6:55～7:17)～朝日岳(8:06)～大弛峠(8:41～9:04)～国師ヶ岳(9:36)～国師のタル(10:25～10:45)～東梓(11:09)→両門ノ頭(11:35～11:52)～富士見(12:12)～ミズシ(12:33～12:46)～甲武信岳(13:05)～甲武信小屋(13:22～13:48)～木賊山(14:00)～破不山避難小屋(14:32～14:52)～西破不山(15:19)～東破不山(15:35～15:44)～雁坂嶺(16:16)～雁坂峠(16:33～16:57)～水晶山(17:23～17:44)～雁峠(18:45～19:10)～山ノ神土(22:09～22:35)～将監峠　(22:55)～飛龍権現(1:45)～北天のタル　(2:21～2:45)～三条ダルミ(5:23～5:40)～雲取山(6:10)～奥多摩小屋(6:35～6:55)～ブナ坂(7:30)～七ッ石山(7:41～8:08)～鷹ノ巣避難小屋(9:10～9:30)～鷹ノ巣山　(9:45)～六ッ石山分岐(11:30)～奥多摩駅(12:27)
〈エアリアマップ合計タイム:34 時間 45 分〉
〈今回歩行時間(含休憩時間):33 時間 47 分〉

お知らせ

**無名山塾・本科(登山学校)のご案内**

無名山塾・本科は自立した登山者の育成を目的とし、2 年間で岩・沢・雪の基礎的な技術(48 単位)を取得して頂きます。入会申し込み、お問い合わせは、無名山塾事務局まで電話、FAX、ハガキ、E メールで。

〒170-0005　東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F
TEL:03-3941-3481(平日 10 時-18 時)　FAX:03-3941-3482
メール:ZUA11617@nifty.com
入会金:10,000 円、年会費:12,000 円

# ◇◆◇ 山の学習帳 No.2 ◇◆◇

【 磁北線の引き方 その2】

「磁北線の引き方 その1」では分度器を使わずに磁北線を書き入れる方法を紹介しました。欠点は関数電卓が必要な点でしたが、今回は電卓がない時の工夫を紹介します。

関数電卓が必要なのは tan(タンジェント)という三角関数を計算しなければならなかったからですので、タンジェントを除ければ単純な手計算で済みそうです。そのために tan θ と θ を比べてみます(図 1)。θ の単位はラジアンです(180° ＝π ラジアンと約束しているので、たとえば 2 万5千図「立山」の西偏角度7° 10′ は(7+10/60)° x(π/180° )＝0.125 ラジアンとなります)。

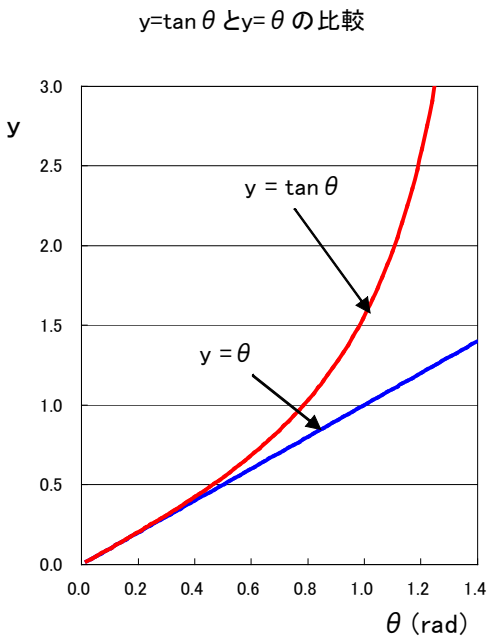



**図 1.**

グラフを見ると、θ が小さいとき、すなわちグラフの原点付近(左下)では y=tan θ と y= θ がほとんど重なっており、θ が大きくなるにつれて乖離しているのがわかります。さて「立山」の西偏角度 7° 10′ は 0.125 ラジアンですので、かなり原点に近い値です。従ってわざわざ電卓で tan θ を計算しなくても、偏角をラジアンに直せばそれがそのまま使えることになります。実際に比較をしてみると表 1 のようになります。

表1.

| θ ° | θ (rad) | AE (cm) | tan θ | AE (cm) |
|---|---|---|---|---|
| 6°00′ | 0.105 | 3.87 | 0.105 | 3.89 |
| 6°10′ | 0.108 | 3.98 | 0.108 | 4.00 |
| 6°20′ | 0.111 | 4.09 | 0.111 | 4.11 |
| 6°30′ | 0.113 | 4.12 | 0.114 | 4.22 |
| 6°40′ | 0.116 | 4.31 | 0.117 | 4.32 |
| 6°50′ | 0.119 | 4.41 | 0.120 | 4.43 |
| 7°00′ | 0.122 | 4.52 | 0.123 | 4.54 |
| 7°10′ | 0.125 | 4.63 | 0.126 | 4.65 |
| 7°20′ | 0.128 | 4.74 | 0.129 | 4.76 |
| 7°30′ | 0.131 | 4.84 | 0.132 | 4.87 |

θ と tan θ の値はほとんど同一であることが解ります。θ と tan θ に地図枠の高さ 37cm を掛けた AE(地図枠の右上から上辺に沿って左方に計る長さ。岩小舎 6 月号「磁北線の引き方 その1」参照)の違いは最大でも 0.03 ㎜であり、これは実用上全く問題にならない誤差です。

三角関数 tan を用いないで磁北線を記入する方法をまとめると以下になります。

(1) 偏角に 3.14/180 を掛けてラジアンになおし 37(cm)を掛ける。
(2) 地図枠の右上の点 A から上辺に沿って(1)で求めた長さを計り印をつける。
(3) (2)の印と地図枠の右下の点を結ぶ。
(4) 手順(3)で引いた線に平行に 4cm 間隔で線を引いて行く。

これで完成です。次回は磁気偏角の分布について紹介します。(研究生・山野昭人)

## ■講習山行の記録

6 月 27 日(日)

### 応用ステップ／丹沢　滝郷沢左俣

◆**メンバー**:工藤寿人(講師)、山野昭人、山野美香、伊藤幸雄、久野眞由美、伊藤由以、福田洋子、南谷 やすえ、伊藤栄子、小林幸恵、阿出川忍、黒田記代、斉藤典子、田中治男、池田松野

◆**記録**　:田中治男

小田急線新松田駅 8 時 20 分集合。車に分乗し寄沢手前の駐車場で下車、沢装備となる。天候は曇り、気温は 6 月末としてはそれほど高くもない。

寄沢本流を横断し、入渓するといきなり 17m の滝。ここは右側の雑木林を高巻いてやり過ごすが、すぐ 2 段の滝となる。伊藤(幸)さんにザイルをだしてもらってプルージックで登る。いきなりの高難度で先が思いやられた。前回初体験の逆川とは川の色、岩の色等まったく違う感じだった。堰堤をこえると二俣。左俣を選んで進むと 5～6m の滝が出てくる。初のシャワークライミングとなる。水が思いのほか冷たい。水流でまったく前が見えないので、南谷さんのいうようにツバつきの帽子が有用だろう。その後大きく高巻いたので現在地の把握がやや困難であった。只どの岩場も丹沢特有の脆さがありまったく信用できない。数年前に転落事故があったと言うのもうなずける。残置シュリンゲに頼らざるをえなかったり、A0 を使わざるをえなかったり、よくぞ無事で帰ってこれたと神に感謝するばかりである。途中から水は涸れ、赤土のルンゼをしばらく登ると最終点であった。ここまでの経過からすると、下山には少なくとも 2～3 時間はかかると思われた。しかし疲れた膝にやさしい立派な仕事道があったのと、希望的予測があたった為、1 時間あまりであっという間に下山できたのはまったくラッキーとしかいいようがない。

今回の講習では、さすが応用ステップといったところか、岩登りの基本をマスターしていないと大怪我どころではすまなくなるという事を実感した。

【行程】
寄沢本流(9:10)～二俣(11:30)～滝郷沢左俣～檜岳付近(17:30))～寄沢本流(19:00)

## ■自主山行の記録

5 月 29 日(土)

### 奥多摩多摩川／水根沢

◆**メンバー**:伊藤幸雄(L)、伊藤栄(SL)、渡部吉実、斉藤典子、福田洋子

◆**記録**　:伊藤栄子

梅雨前の沢日和で、10:50 養魚場先より入渓　　した。

ゴルジュに入りシュリンゲがあるのでへつる所と思えるが、釜は浅く心配なく進めてしまう。4mナメ滝は勢いよく流れていて、左壁のシュリンゲを使い振り子式で、男性２人がチャレンジした（華麗に通過したか否かはご想像にお任せする）。女性陣は浅くなってしまった釜から直登。次のゴルジュでは目の前に釜が広がり左岸のシュリンゲをつかみ岩にへばりつき水線際をトラバースした。釜が浅い為に足元のテラスを容易に探すことができたが、水が多いと足探りになるのだろう。落ちたくない為少々ヒヤヒヤ・・・

右岸よりワサビ田と支沢が現れ、沢は右に曲がりへつりも泳ぎもなく？順調に進み半円の滝にたどりついた。流れ落ちる勢いは強く、手、足に神経を集中させてツッパリ登りで最後の仕上げとなった。

【行程】
入渓（10:50）～遡行終了（13:00）～水根（13:45）

**5 月 30 日（日）**

## 奥多摩日原川／鷹ノ巣谷

**◆メンバー**：伊藤栄子(L)、斉藤典子（SL）、阿出川忍、小林幸恵、南谷やすえ
◆記録　：斉藤典子

奥多摩駅に 8:30 に集合。車で東日原駐車場に向かい準備を整えるが、かたわらでは 20 人以上のハイカーが準備体操をしており、ハーネス付けてガチャガチャいわせてる私たちは熱～い視線を感じた。この方々は私たちとは逆方向へ向かった。

9:45 入渓点到着。現在位置と笛の合図の確認をし高度を合わせる。今回はここで待ち人となっている山野美香さんにも熱い応援を受ける。（黒田・山野昭人・福田パーティーは先発している）

荒れたワサビ田を左手に見て(あっ・・右岸ですネ)堰堤を二つ超える。沢初心者の私は濡れた岩が苦手！！腰が引き気味で5メートルの滝ではザイルを出してもらって安心して登ります。他の方はスイスイと登っていましたが。

12:35 に 20m 大滝に到着。黒田パーティーは登って降りてきたばかりのご様子。私たちを追い越して行った別のパーティーがこれから登ろうとするところで、しばし待機する。時間によっては大滝で引き返すことにしていたが、まだ余裕もあることだし、見たら登るしかないでしょう！ということになった。滝の近くは涼しく、早めに防寒対策をしないとね。

13:05 栄子さん、南谷さんがそれぞれトップで登り始め、後の 3 人が続く。あとは大滝の左岸かなりガレた場所へ下降、終了 13:55。

遡行中、あそこで懸垂の支点を取るといいよね～なんぞと見上げて言っていた木は、いざ上から来た場合では行き着くまでがけっこう大変。あーでもない、こぉーでもないを繰り返し、繰り返し（これがいいんでしょうナ）出来た下降でした。

16:30 入渓点に戻る。

いつも２番手を歩かせてもらい、遅れてもあわてて追いかけることもなく、足の置き方、水の中でのまさぐり方をじっくり見ることが出来ました。沢自主は 2 回目ですが自主だから出来ること、これはいいかも！緊張のあとの楽しさ爽快さがいいですネ、もっと慣れていきたいです。

【行程】
入渓点（9:45）～20m大滝着(12:30)大滝終了(13:55)～入渓点（16:30）

ﾑﾑﾑﾑﾑﾑ 6月5日(土) ﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑ

## 奥多摩矢沢／熊倉沢左俣(西沢)

ﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑ

**◆メンバー**：南谷やすえ(L)、久野眞由美(SL)
**◆記録**　：久野眞由美

熊倉林道に沿う熊倉沢は、実に穏やかな・魚影濃く、のんびりした沢でした。右俣を分け、左俣に入っても沢歩きのような穏やかな渓相でした。小滝・小さな小さな釜・小さなゴルジュ。しかし、小さいながらも意外と釜が深い所もありました。暑い日だったので、気持ち良し！天気も良く、炭焼き跡のあたりで水音を楽しみながら和んで、さあ行こう！と歩き出すと、あれあれ、伏流に。遡行図では、もうちょっと先まで水があるはずなのだが・・。予定では、遡行＆下降だったのでしばらく枯れ沢を辿りましたが、やはり水が恋しくなり、U ターンして下降。1ヶ所だけ、懸垂下降。右俣と合流した後も、林道に上がらずに堰堤で行き詰まるまで、熊倉沢をジャブジャブと歩き下りました。沢登り、というか、沢遊びのような半日行程で、晴天の暑い日を涼んでまいりました。

※南郷で矢沢林道に入り、落合橋の手前を右に延びる熊倉林道へ入ると、すぐのところに広い駐車スペースがあります。遡行図などでは、入渓点近くまで車で入れる記載がありますが、このあたりに駐車するのがよいようです。駐車スペースから先の林道には落石の跡があり、また、私たちが行きに歩いた時にはなかった落石が帰りには転がっていました。

【行程】
武蔵五日市駅(8:30)～熊倉林道(9:30)～熊倉沢二俣(9:50)～沢枯れる/下降(10:50)～左俣の二俣(11:50)～熊倉林道(12:45)

ﾑﾑﾑﾑﾑﾑ 6月5日(土) ﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑ

## 奥多摩矢沢／熊倉沢左俣(東沢)

ﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑﾑ

**◆メンバー**：伊藤栄子(L)、斉藤典子、阿出川忍
**◆記録**　：阿出川忍

入渓から水が涸れるまで 1 時間という短い沢です。人も入っていないらしく、クモの巣と苔が多かったです。

ザイルを出したのは 2 段 15m の滝 1 箇所。ザイルなしでも登れないことはないですが、スラブ状の岩に苔が付いていて、ヌルヌルして滑りやすい。

水が涸れる辺りが奥の二股で熊倉山の頂上を目指し、沢山の倒木を跨いだり、くぐったり、登ったりしながら進むとホールドのしっかりした滝が沢山でてきます。もちろん水は涸れているんですけど、流れていたらおもしろそうな所でした。

尾根まであと 10 分という登りがふかふかの腐葉土で、ずり落ちながら必死で登りました。頂上からは仕事道を降りてきました。

【行程】
駐車場(9:50)～入渓(10:17)～二股(10:30)～奥の二股(11:20)～熊倉山頂上(13:00)～駐車場(14:30)

ɹɹɹɹɹɹ ６月５日（土） ɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹ

## 谷川岳・一ノ倉沢／烏帽子沢奥壁　南稜

ɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹɹ

**◆メンバー**：横川秀樹(L)、伊藤幸雄(SL)
**◆記録**　：　横川秀樹

前夜 23 時過ぎに一ノ倉出合まで入る。既に駐車場は 3 分の 2 以上が埋まっていた。6 月最初の土日は谷川を登ろうとするクライマーにとって待ちに待った日なのだろう。

朝 3 時 20 分起床。パンを食べ、ハーネス等装着し、3 時 55 分出発。出合付近の雪渓が一部切れているところは、右岸を進むと数分で再び雪渓に戻ることができた。

4 時 20 分頃テールリッジの末端に着くが、ここは左側から取り付くものと思い込み、烏帽子スラブに向けて進んでいく。雪渓がなくなったところでアンザイレン。伊藤さん先行で、テールリッジの尾根の部分を目指してコンテで斜上していく。いやなスラブと草つきを越え本来通るべき尾根部についた。

自分達がトップだと思っていたのに、既に 10～20 人近くに先行されていることに気付きあせって登る。コンテで登っている人は他に見かけないが、かまわず登る。

中央稜取り付きには誰もいない。通過。

中央カンテ取り付きには一組（山塾出身の佐藤さん）。挨拶をして通過。

変形チムニーの取り付きには一組。挨拶せず通過。

南稜テラスに到着。4～5 人ぐらいが準備中。リーダーはどこかで見た人だが誰だか思い出せない。「失礼ですが・・・」「和田ですけど」「えっ、和田さん!? お久しぶりです。山塾の横川と伊藤です」

山塾の講師でもある（最近はちょっとご無沙汰だが）『山人ノマド』の和田さんだった。こうなると話は早い。既にロープを結んでいる我々を見て「先どうぞ」の一言。ありがたく一番に登らせてもらうことにする。

5 時 40 分。1P 目。私のリード（以下、つるべ式）。上部のチムニーは、右の壁から行きたくなったが、思い切ってチムニーに突っ込むのが正しいようだ。

2P 目。フェースから草つき。

3P 目。岩まで歩き。

4P 目。ハング下を左へ。一段上のテラスへ行くべきだったが、手前のテラスで切る。

5P 目。凹角から馬の背リッジへ。ここも少し上でビレーができたようだ。

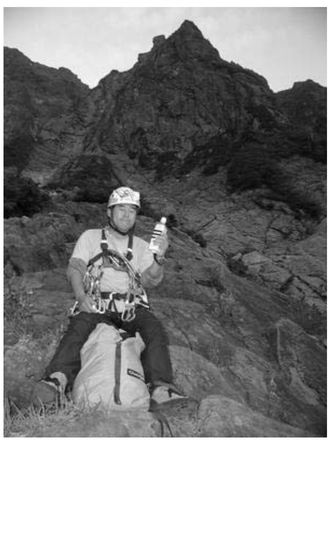
6P 目。リッジから烏帽子沢奥壁側へ回りこむ。最高の展望。最高の高度感。

7P 目。振り返ると後ろはスッパリと切れ落ちた壁を登り、続いて核心部の垂直フェース。とはいってもここもさほど難儀することなく終了。

ガイドブックとは多少、ピッチの切り方が違ってきたが 8 時 10 分に登攀を終える。その後、終了点の 3m 左上にある懸垂支点から 6 ルンゼを下降。3P で降りて、南稜ルートに戻り、登ってくる人に注意しながら、10 時半南稜テラス着。途中、ロープが回収できずに登り返すトラブルがあったのが反省点だ。

このあと、来た道を戻るのだがこれが非常にいやらしく、南稜を登るよりはるかにコワイ。とにかく慎重に降りて、テールリッジでは懸垂下降も 1 回し、出合着は 12 時半。

最高の天気のもと、きょう一番に南稜を登った充実感を胸に乾杯。



【行程】
一ノ倉沢出合(3:55)～南稜テラス(5:40)～南稜終了点(8:10)～南稜テラス(10:30)～一ノ倉沢出合(12:30)

ＪＪＪＪＪＪ 6月6日(日) ＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪ

## 谷川岳・一ノ倉沢／衝立岩　中央稜

ＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪＪ

**◆メンバー**：横川秀樹(L)、伊藤幸雄(SL)
**◆記録**　：横川秀樹

前日同様3時20分起床。ギアをつけて3時50分出発。テールリッジ末端は4時10分。残置ロープを頼りに雪渓から滑りやすいスラブ状の岩へ乗り移る。

すぐ前を行くパーティーは、どうやらガイドと3～4人の客らしい。途中で抜かして、4時50分に中央稜取り付きへと着く。が、そこには既に先客が4人いた。

30分ほど準備をしながら待ち、5時20分頃、登攀開始。

1P目。私のリード(以下、つるべ式)。「上部は逆層」とガイドブック等には書いてあるが、逆層というより、岩の節理が縦に走っている状態だ。(これも逆層というのだろうか？)いずれにしろ、やや登りにくいのは事実。

2P目。左のルンゼに回り込んで、意外に立っている岩を登っていき、最後は右にトラバースしてビレイ点へ。このピッチでかなりの待ち時間。

3P目。第2フェースといわれる部分。「近年一部崩壊」とトポにあって、あまり強引な登り方はしたくなかったため、上部でヌンチャクをつかんでA0とした。

4P目。上部のチムニーが中央稜の核心部。たしかにキッチリとしたホールドがなく残置スリングのお世話になる。

5P目。凹角を登って、途中のテラスでビレイ。本来はその上まで進むらしいが、前がつかえていてここで切る。

6P目。さらに凹角から、カンテ状だったか。この辺から、前後のパーティーと差が付いたのかどちらも見えなくなった。

7P目。岩通しに行こうとするが、何となく間違っているような気がして、一旦クライムダウンし、左の泥のルンゼへ回り込んで登る。結構進んだところで右にテラスがあり、のぞき込むとビレイ点発見。

8P目から。まず出だしは2mほど岩を登るが、その後はほぼ階段状だったり草付きだったり。最後の岩場は直登せず、右下へ回りこみ、もろい岩のルンゼを登り稜線に出る。9時ちょうどに登攀終了。

ゼリー状飲料で栄養補給後、すぐに下降開始。稜線を右に30m進んだところが北稜の懸垂ポイントだ。3ピッチほぼ真下へ降り、その後2ピッチ、傾斜の緩い草付き帯をいく。さらに空中懸垂1ピッチ。残置ロープでバンドを10mトラバースしてもう一度空中懸垂。これでコップスラブに着いた。時間は11時半になっていた。

略奪点を過ぎ、沢(雪渓)を一本越えて衝立前沢へ入るが、この雪渓が急斜面で手強い。何度も滑り落ちそうになり、その度にハンマーを雪に打ち込んで滑落停止をした。

衝立前沢の下降も気が抜けない。最後は1ピッチの懸垂下降で、すぐに本谷の雪渓に出た。出合到着は12時55分。ちょうど雨が降り出した。

【行程】
一ノ倉沢出合(3:50)～中央稜取り付き(4:50)～登攀開始(5:20)～登攀終了(9:00)～略奪点(11:30)～一ノ倉沢出合(12:55)

**6 月 6 日（日）**

## 奥多摩・惣岳山／シダクラ沢

**◆メンバー**： 福田洋子(L)、南谷やすえ(SL)、渡部吉実
**◆記録**　　：福田洋子

いつも車で近くまでアプローチする私達だが今回ばかりは近くに駐車できる場所が無いとの下調べ（地元民？南チャン調査）により奥多摩駅よりバス利用、それでも 10 分ほどで惣岳バス停に到着。多摩川に架かるシダクラ橋を渡った所で身支度を整え沢に降りる。

最初の 4m 滝は直登と言いたい所だが初っ端から濡れるのはどーも（今日が晴れだったら別よ）とさっそく巻く。緑の苔が小滝に映えて庭園のような面持ちで目が楽しい。小さいくせにいっちょ前の釜を持つ小滝やナメが続く。2 段 6m は倒木がおおいかぶさり手がかりも充分あり通過、二俣手前の 4m で右と左に分かれて登るが右が乗越しで悪く左より上がった南チャンにスリングを出してもらう、う～ん「上部の事も見定めてから登ろう」と反省。

水も枯れて奥の二俣に入り踏跡とテープを拾いながら進むと大ブナ尾根の登山道の 1128 地点（木の幹に青テープ）ぴたりと出た、この瞬間がなんともうれしい。

今日の目標、惣岳山では他の山岳会が集中をやっていた、やはり沢登りのチームがいるらしくお仲間と間違えられる。自分たちもこんなふうに山頂で仲間が出迎えてくれたら楽しいかも、今度の集中でそんな企画が出来たら良いな…なんて思ってしまった。

惣岳山からは大ブナ尾根を下らずあえて栃寄、境橋方面に下る、そしてバスには乗らずに奥多摩駅まで歩いた。歩道の無いトンネルの中を車とスレスレになりながら歩くのは沢とは又、別の意味でスリリング（危険）だったかな。（車の運転手がいやだよね、ゴメンナサイ）

【行程】
入渓点(10：30)～二俣(12：30)～1128 登山道(14：00)～惣岳山(14：20)～境橋(16：00)～奥多摩駅(16:30)

**6 月 12 日（土）**

## 岳嶺岩／A1トレーニング

**◆メンバー**： 横川秀樹(L)、伊藤幸雄(SL)、山野美香
**◆記録**　　：山野美香

梅雨時期の自主プランに変更はつきもの。横川・伊藤幸両名は一ノ倉を予定していましたが、雨の予報の為急遽越沢バットレス（岩の状況によっては岳嶺岩 A1 トレーニング）自主に変更、それに参加させてもらうことにしました。

夜半まで降り続いた雨で越沢バットレスは無理かな….すると久々のアブミだ！とワクワクしてきます。家を出るころには青空も顔を覗かせはじめ、集合場所の鳩ノ巣駅へ向けて鼻歌まじりに快適ドライブをしていたのですが、なんとなくいやな予感。“おととい人工壁にいった時ハーネス使ったよな…あれザックに入れたっけ？”だんだん不安になり、コンビニの駐車場に車を停めて調べてみると予想通り入っていません。どうしよう、取りに帰れば大幅に遅刻してしまう。でも今日の企画はハーネスなしでは無理だし・・。仕方がない、家に帰って二度寝でもするか　と開き直りリーダーに連絡するも、「このまま帰ります」とはさすがに言い出しずらく、「とりあえず取りに戻りますので先に行って下さい」ということに。

家に向かって車を飛ばしているとリーダーから電話です。「Yさんヘルメット忘れたから山野(昭人)さんの持ってきて」 ホッ、これで私もお咎め無しか、でも二度寝はできないや。

そんなこんなで長旅の末岳嶺岩に着いた頃にはすっかりお疲れモードです。Yさんにヘルメットを渡し、さて少しマッタリと……させてくれるはずがありません。「はい、登って」の一言に慌てて身支度を整えて、約 1 年ぶりのアブミに挑戦です。

既に垂壁 2 ルートと小ハングにはリーダーがトップロープをセット済で、久々のことにあれこれ手順を頭の中で考えながら…と思うヒマもなくアドバイス通りにまるで操り人形のように身体を動かしているとあら不思議、あっという間に終了点です（ホントは随分時間がかかっていたと思いますが）。フィフィを使って無駄な力を使わずに登るコツを教えて頂き、感謝感謝（講習費タダは超ラッキーです）。

1 年次生の時初めてアブミと出会ってからまだ数回のトレーニングしか経験していませんが、実に素晴らしい道具であることを再認識しました。ホールドやスタンスをうまくとらえられずに行き詰まり冷や汗と涙が同時に出そうになる、ハングしている岩が私を襲いかかろうと待ち構えている…そんな時、手品のようにアブミを取り出しグイグイと登っていくあの爽快感はたまりません。ただ、今まではアブミを巻き込んだ時に膝を岩に当てることで膝がアザだらけ、リストループに通した手首に体重を預けることで手首も真っ赤になってしまうことが辛かったのですが、フィフィを活用することでその問題も一挙解決！充実度満点の A1 トレーニングとなりました。

横川リーダー、伊藤幸さん有難う御座いました。次回はリードに挑戦です！

【行程】
鳩ノ巣駐車場(8:00)～東日原／岳嶺岩へ移動(9:00) A1 ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ（15:00 終了）

## 6 月 13 日（日）

## 日和田 RCT

◆**メンバー**: 伊藤栄子(L)、斉藤典子(SL)、阿出川忍、松本善行
◆**記録** :伊藤栄子

男岩南面をシングルロープにて登攀、テラスにてリード交代する。

ロープワーク及び支点の確認などを行い、南面のリード練習を繰り返した。
午後から西面にトップロープをセットし登攀練習をした。が、手は上がるが足が上がらず腕はパンプすることを繰り返し、腕を休ませながら何回かチャレンジし、身体の動きもスムーズに登ることが出来た。

リード練習は、ロープワークは遅くても安全確認を最優先し、登攀は出来ない所を繰り返す行うことで感覚がつかめ、無理の無い登り方が出来るようになったと思う。

これからは、定期的にクライミング練習を行っていきたい。

**お知らせ**

**原稿の宛先**

月刊岩小舎の原稿は、下記までお願いします。

講習山行⇒山野美香
自主山行⇒福田洋子
同人便り⇒坂口理子
今月の一言⇒横川秀樹

メールアドレスがわからない場合は、sanjc2004@yahoo.co.jp までお問い合わせ下さい。

## 今月の TIPS (No.4)　～ロワーダウン～

今回はトップロープでの岩登り練習で是非覚えておきたいことをご紹介。さて、テンションで降りることを『ロワーダウン』と言いますが、安全なロワーダウンの方法（降り方）はどれ？

① ハーネスに連結されている側のメインロープを「両手」でしっかりとつかむ。
② ハーネスに連結されている側のメインロープを「片手」でつかみ、半身となる。
③ ロープは一切つかまず、両手を大きく広げバランスを取りながら降りる。
④ 「反対側（ビレイヤーに連結されている側）」のロープをつかみながら降りる。

いかがですか。あなたはどのようにしてロワーダウンで降りていますか？　これも、いろいろ考え方があるかもしれませんが、事故の確率を一番減らせるのは、間違いなく、④です。

ビレイヤー側のロープをつかんでいれば、万一ビレイヤーが手を離しても、万一ビレイヤーが落石で気を失っても、万一ビレイヤーが心臓麻痺で突然死しても、落ちることはありません。

また、そういった極端なケースではない場合でも有効です。例えば、クライマーが終了点につき、『テンションで降りまーす！』と声を掛けたとします。しかし、風の影響などで、『懸垂で降りまーす』とビレイヤーに聞こえるかもしれません。懸垂下降なら、ビレイヤーは当然ビレイを解除することになり、悲惨な事故へとつながります。

ですから、まず降り始めの 2～3mだけでも、反対側のロープをつかんで降りることが大切です。そして、ビレイヤーがきちんと降ろしてくれていると確認できたあとは、半身になって下方向を確認しながら降りるのが良いでしょう。「最初は④で、途中から②」、これが私のオススメです。（研究生・横川）

※「続・生と死の分岐点」の 170 頁にも、似たようなことが書いてありました。

**6 月 13 日（日）**

## 奥多摩盆堀川／石仁田沢

**◆メンバー**: 南谷やすえ(L)、福田洋子(SL)
**◆記録**　　:南谷やすえ

「五日市の沢シリーズ」入渓は盆堀川沿いで車で楽々入れます。ここは私の学校のなんと学区域です。

この沢は、沢歩きという感じであまり踏まれていないようでした。なにか冒険気分で小滝を越えていきました。最後のつめもなかなかおもしろい。

さて、登山道(仕事道)にでて下り採石場の所を降りましたが、適当な場所は見つかりませんでした。これは遡行図が変わっていたかなと。でも、こういうのがまたおもしろいのかな。

【行程】
林道終点入渓(9:40)～刈寄山山頂(10:40/11:00)～採石場(11:30～13:00)～林道二俣駐車地(14:30)

˩˩˩˩˩˩ 6 月 14 日(月) ˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩

## 丹沢／広沢寺 RCT

˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩

**◆メンバー**: 伊藤栄子(L)、久野眞由美、阿出川忍
**◆記録** :伊藤栄子

平日の為、5人組とボルダー1人だけであったのでゆったりトレーニングとなった。

マルチでのロープワークを確認する為に、シングルロープにした。

ピッチを切るための支点での確保手順が、理解していてもスムーズな操作につながらなかったが、交代で繰り返し行うことで流れが出てきた。

ダブルロープワークも確実なものにしていきたいので定期的に行えるようにしたい。

【行程】
広沢寺の岩場(10:30)～(16:30)

˩˩˩˩˩˩ 6 月 17 日(木) ˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩

## 越沢バットレス RCT

˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩˩

**◆メンバー**: 横川秀樹(L)、山野美香(SL)
**◆記録** :横川秀樹

これまで何度か行こうとしたが、そのたびに雨で中止となってしまった越沢バットレス。今回は、週間天気予報をにらみつつ、当週の月曜日に自主を決定。勤務先に休暇届を出したり、金沢さんに計画書を出したりと(ギリギリになってすみませんでした)、ちょっとバタバタしてしまったが、梅雨の中休みを狙いうちするにはこれしかなかった。

パートナーにはいつでも休めそうで(失礼！)、クライミングに情熱を燃やしている山野美香さんを指名。予想通り休暇を取ってくれ感謝。

朝8時鳩ノ巣駅の駐車場に集合。平日だが、ハイカーがそこそこいる。道を間違って、バットレスキャンプ場経由で岩場に着いた。第1スラブと第2スラブ、並行して右に斜上する二つのスラブが大迫力で迫ってくる。なかなかスケールの大きな岩場だ。

さて、まず手始めに4級＋の第2スラブに挑戦。1ピッチ目、桧テラスまでを私がリード。簡単そうだが意外と難しく、先が思いやられる。

2ピッチ目に入る前に、別の3人パーティーがやってきた。オフィスアルパインの大森上級登攀ガイドとスクール生(?)のお二人だった。大森さんとは面識があったので、軽く挨拶。2ピッチ目をリードする山野さんへも「ピッチは最初の残置支点よりも一段上の支点まで行ったほうがよい」とアドバイスをしていただいた。

続いて、私がフォローで2ピッチ目を行くが、スラブの基部から上はなかなかイヤらしい。岩自体はツルツルなので、足は細かいエッジを拾っていくしかないし、ホールドも細かい。しかもほとんどが逆層気味だ。「よくこんなところをリードしたもんだ・・・」と思いながら何とかビレー点へ到達。

息つく暇もなく、最終3ピッチ目は順番からいって私がリードしなければならない。「うーむ、どう行けばいいんだ？」と悩んでいると、向こうのほうから「横川さ～ん、何級やりたいの？」と大森さん。「やさしいところを行こうと思ってるんですが・・・」「だったら右へトラバース気味に行くのが4級。真上は5級で、左のフレークを使っていくと6級ですよ」

一見、左のフレークが一番易しそうだったので、そこから行こうと思っていたのだが、この言葉で迷わず右へトラバース。テラス状のところへ着いたら左上へ登っていく。一瞬危ない場面も

あったが、何とか終了点へ。

最後は右へトラバースしたところにある大木から懸垂2ピッチで基部に戻る。

少し休んで、次は右ルート。最初のピッチは5級ーで小ハングを乗っ越していくのが核心だが、山野さんが慎重にクリア。

2ピッチ目は私がリードするが、これまた意外と悪かった。最終3ピッチ目は山野さんの順番だが、途中アクシデントにより私が登ることに。細かい逆層気味のスラブはどう見てもやさしくはなく、A0を多用して何とか登りきった。

この右ルートが越沢バットレスでは一般ルートということだが、このぐらいが楽にリードできないようでは・・・と、修行不足を痛感した一日だった。

【行程】
鳩ノ巣(8:25)～岩場(9:05)～第2スラブ登攀開始(10:00)～下降終了(12:10)～右ルート登攀開始(12:30)～下降終了(15:00)～鳩ノ巣(16:00)

**6月26(土)**

## 丹沢四十八瀬川／小草平ノ沢

**◆メンバー**: 伊藤幸雄(L)、伊藤栄子(SL)、福田洋子
**◆記録** :伊藤幸雄

翌日講習である滝郷沢の足慣らしとして、軽めの沢である小草平ノ沢に出かけることにした。

9:30 に渋沢駅に集合しバスで大倉に行くことにしたがちょうどよいバスがなく、大倉口から出合の二俣まで歩くことにした。

約 2 時間で到着、準備をして 12:00 に入渓し沢沿を歩いて 5 分もすると右岸に勘七ノ沢 F1 の滝が見えてきた。そこを右に曲がり最初の F1(5m)滝にぶつかる。

先日の雨の影響か水量が意外と多いのにビックリする。滝壷に入ると腰程度まであり、当初膝下程度の沢かなーと軽く考えていたことから「おいおい、ちょっと違うぞ」の声がでる。

F1、F2 の 3 段 12m をシャワークライムで登るが水の勢いで押されてしまう。ゴルジュの 3 条 3m の滝などは 3 条が 1 本の滝になっている様な水の勢いであった。一応、中央から攻めるのがセオリーだが水の勢いもあり、右側から登りロープをだした。

その後、小さな滝はあるがなんなく通過し、この沢一番の F4、7m の滝を右側から登りはじめた。取り付きの足がかりはしっかりしていたが上部になるとやや丸みをおびて滑りやすい状態になっていた。右に残置スリングがついていたが弱々しいので使わず、福ちゃんに右側から高巻いてもらいスリングをだしてもらった。

後でみてみると高巻いた部分も崩れやすい状態で嫌な感じ、よく登ってくれました。

小滝を 6 個程度のぼり、最後の 6m 滝をこえた後は沢筋をつめて 14:00 大倉尾根登山道にでた。大倉尾根を下り大倉に 15 時着。

夕飯を渋沢で食べることにして、店さがしで街をぶらぶらしていたら、散歩中の老人から声を掛けられ「山ヤさんがよく行く店でおいしい店があるよ」と言われ「いろは食堂」を紹介してくれた。早速、3 人で入ったが、家庭料理で何でもありのおいしい店であることは確かでした。特にタン麺はお勧め。

【行程】
大倉口(9:40)～二俣出合(13:00)～大倉尾根(14:00)～大倉(15:00)

**********
## ■こちら技術委員会～講師/金沢和則～
**********

「技術委員会とは何ぞや」から始まったのは2003 年の 6 月。定期的になったのはそれからで・・・はやくも一年以上に。う～～ん（曖昧な笑）。
さてさて、これからどこにいくのか、どうなるのか楽しみ～っ。

さて今月は机上での話すであろうことの概略を。で、なんだっけお題って。

「テント山行の準備・パッキング・生活技術」・・・
う～～ん。派手じゃないし話の組み立て大変そう、私には（笑）。
◆テント山行の準備か・・・テントを買うか誰かから借りるか。
◆パッキング・・・ザックに入れりゃいいじゃん。
◆生活技術・・・いつもの生活と同じね。ビール飲んで騒いで。
・・・じゃ、話進みませんね（笑）。
テントは当然ながら山岳用ですね。居住性は少し悪くなるにしても軽量化も含め山岳用はベスト。料金はそこそこするけれどそれに見合った性能はある。メンテナンスと使用方法に注意することが一番かな。使用後は洗わないことはあっても乾燥はさせておくことがポイント。山での使用方法は火の扱い。水に対する気遣いは減ったかわりに化繊でできているので要注意。それから生活面では陣取りがひとつテントでのイベントかな（笑）。最適空間を時間差も含め組み合わせていかないと混乱や喧騒が、でもうまくやれば男女混合でも問題なく同時衣装換えだって可能・・・あ、話の質が落ちましたね。冗談はともかく、狭いスペースをいかに快適にするかはメンバーの協力が必要なことでもあります。
パッキングは人生そのもの。どのようなパッキングをするのか、そのひとの人生が垣間見える。ザックとも関わるけれどアタック型のザックが主流のいま、昔々の大昔キスリング型にくらべれば考えなくて放り込めばいいんだ・・・言い過ぎ？
でもそれくらい、いまは用具においても性能がよくなり軽量化されているので頭使わなくてもいい。それぞれのこだわりで基本構成はいいのではと思えてしまう。
ま、登攀具などが必要とか、縦走のような長期の装備ともなると少し工夫は必要かな。それでも左右のバランスがとれればいいかなというのがポイントかな。後はストラップの調整などザックの基本性能でカバーできるのが最近のザック機能。

ところでパッキング上手になるために一番必要なことってどんなことだと思います？
山行をシュミレーションをして必要最小量を確保、食料など余計な包装など取り除く
などなど・・・工夫はいろいろあるでしょう。それも必要だけど、やはり一番はパッキングする用品について詳しく知ること、好い点・悪い点など。またメンテナンスもきちんと自分でするなど思い入れが大切。愛着を持つ。これが一番と思います。そうなれば、どこまで押しつぶしても大丈夫とか、どのように組み合わせたらいいかなど頭に浮かんできます。ひとの荷物も自分のザックに上手にパッキングできるくらいになればプロ級かな。

あ、まさかどこにいけばいいかわからない・・・。なん～てことないですよね。目的が決まってなければパッキングもできるわけがない（笑）。

ところでパッキングの準備やパッキングはしても・・・仕事で急にいけなくなった。
仕事でどうなるか予定がたたないや～っ。

そんなときはどうしよう、どう考えていこうか・・・。技術委員会との関係は・・・。山への思い入れはあるけれど・・・山にはいけてないし、山への思い入れの定量化はどうしたら成り立つのか・・・
などなど、そんな話は別の機会にでも。

## ■□■□　編集室だより　■□■□

沢でこめかみと頬の2箇所虫に刺されました。ヌカカかブヨか正体は判りませんがなかなか手強いヤツです。翌朝から顔が腫れ始め、どんどん悪化していきます。まるでお岩さんかガッツ石松のように……。この顔では会社へ行けないと思い病院へ行ってきました。刺されたところから雑菌が入ったのだろうとのことで、のみ薬と塗り薬を処方して頂きようやく回復。

さて、虫刺されがイヤだからこの時期山や沢には行くのやめよう・・・てなことはありえない。だからといって同じことを繰り返すわけにもいかないので今後の対策を考えなければなりません。沢登りの時は防虫スプレーをつけてもおそらく水で流されてしまいます。蚊取り線香も電池式の虫取り器も当然水には弱い。

あれは本科1年次生時の6月のカモシカ山行。ライトに照らされて蛾が集まってくるのがイヤで山道具店で買いました「防虫ネット」。でも結局一度も使ったことがありません。だって山でそんなの被っている人見たことないし、カッコ悪いし、蜂取り名人じゃぁあるまいし…。

でも、お店で簡単に入手できるということは、案外皆さんも持っていたりして。次回は勇気を出して、かぶってみましょうか。

で…どうでしたか、かぶり心地は？　T口さん。

（編集長）

～*～*～*～　7月の一言集　～*～*～*～

◆沢登りでの落石でタンコブを作った。「落石は見てよけろ」とM講師に教えられたが、複数の落石は避けようがないことを実感。落石を避けるより落石の来る場所を避ける方が現実的だ。（山野昭）

◆日に日に新たなり。日に日に初心者なり。（田中）

◆机上講座でアンケートをとると、テント縦走をやりたい人が一番多く、次が雪と岩、その次は沢と山スキー。そう言えば、私も入会前はテント縦走がメインでした。（横川）

◆だいぶ調子も戻ってきた。今年の沢初めは6月になってしまった。滝郷沢はインディ・ジョーンズの世界だった。最近やけに冒険登山が面白い～！(YUI)

◆7月に入ったが自分はまだ春の感じ。夏や秋の計画や、山行報告に追われ、消化吸収がスムーズに流れない。楽しいけれど身体も疲れてくるので寝込まないように気を付けつつ、やっぱり山に行っている。（いとうえいこ）

◆5月に途中で断念した奥多摩全山縦走ですが、今月は続きで高尾山まで歩きました。なんかスッキリした気分です。（阿出川）

◆暑くなって沢が楽しい季節でっす。崩壊の進む滝郷沢、何箇所か岩を崩して私も崩壊の一要因となってしまった・・。ごめんなさい。（久野）

◆「沢登りの要諦は出合と詰め」ということを思い知らされた6月。登攀技術以前の課題が肩に重い7月になりそう・・・。（木之下）

◆福島で馬刺しを食べた。昔越後の商人が馬に荷物を運ばせたあと、その馬を処分して食べたのが始まりらしい。馬刺しの有名な地域には同様の悲劇があったのかも。でも馬刺しはやめられない。（渡部）

◆夏の計画、休みが足らずママならず。悩ム悩ム・・・。（FUKU）

◆無花果の木・柿の木にもまだ青いけど実をつけ日に日に大きく。ドクダミの香りもどこからともなく。身近なところでも妙に夏ですね。（kanazawa）

◆ライフジャケット装着の沢山行。それって、安心安全登山？（kuroda）

◆最近、映画館で映画を見ていない。たまに観たいなーと思うが、何故か空いている休日は山を入れてしまい会社帰りにと思うが足は秀山荘に行ってしまう。（ゆKIお）

◆岩が剥がれる沢講習(滝郷沢)に行った、ヒヤヒヤドキドキものだった。沢は苦手なんだけど・・おもしろかったですっ！（斉藤）

◆遠足（シニア）から憧れの本科に。岩、沢、雪山などいろんなことを学びたい。焦る気持ちを抑え、まずは基本から・・・。頑張ります。（福島）

◆♪なつ、なつ、なつ、なつ、「とこ夏」だったか、「ココナッツ」だったか、いつも忘れちゃう。さて夏本番、今年こそは高尾ビアマウンテンへゆく！（松本）

◆雨の休日、「ナバロンの要塞」のビデオを引っ張り出してきて観る。グレゴリー・ペック演ずるマロリー大尉、登山家って設定だったんだ（12へぇ）。（R子）

## ■6 月の山行一覧

| | 種類 | 場所 | 日程 | メンバー | 記録 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 自主 | 奥多摩／水根沢 | 5/29 | 伊藤幸(L),伊藤栄,渡部,斉藤,福田 | 伊藤栄 |
| 2 | 自主 | 奥多摩／鷹ノ巣谷 | 5/30 | 伊藤栄(L),斉藤,阿出川,小林,南谷 | 斉藤 |
| 3 | 自主 | 奥多摩／熊倉沢　西沢 | 6/5 | 南谷(L),久野 | 久野 |
| 4 | 自主 | 奥多摩／熊倉沢　東沢 | 6/5 | 伊藤栄(L),斉藤,阿出川 | 阿出川 |
| 5 | 自主 | 一ノ倉沢／南稜・中央稜 | 6/5-6 | 横川(L),伊藤幸 | 横川 |
| 6 | 自主 | 奥多摩／シダクラ沢 | 6/6 | 福田(L),南谷,渡部 | 福田 |
| 7 | 自主 | 岳嶺岩　A1トレーニング | 6/12 | 横川(L),伊藤幸,山野美 | 山野美 |
| 8 | 自主 | 日和田　RCT | 6/13 | 伊藤栄(L),斉藤,阿出川,松本 | 伊藤栄 |
| 9 | 自主 | 奥多摩／石仁田沢 | 6/13 | 南谷(L),福田 | 南谷 |
| 10 | 自主 | 広沢寺　RCT | 6/14 | 伊藤栄(L),久野,阿出川 | 伊藤栄 |
| 11 | 自主 | 越沢バットレス　RCT | 6/17 | 横川(L),山野美 | 横川 |
| 12 | 講習 | カモシカ山行／<br>御前山～日の出山 | 6/19-20 | 工藤,岩本,伊藤稔,小林幸,福島,遠足 4 名 | 小林幸 |
| 13 | 自主 | 八ヶ岳　南北縦走 | 6/18-20 | 伊藤幸 | 伊藤幸 |
| 14 | 自主 | 八ヶ岳　北南縦走 | 6/19-20 | 横川(L),浅村 | 浅村 |
| 15 | 自主 | 西原峠～高尾山 | 6/19-20 | 黒田(L),伊藤栄,阿出川,斉藤 | 斉藤 |
| 16 | 自主 | 三峰～雲取山～石尾根 | 6/19-20 | 山野美(L),山野昭 | 山野昭 |
| 17 | 自主 | 奥秩父主脈全山縦走 | 6/26-27 | 松本(L),矢田 | 松本 |
| 18 | 自主 | 丹沢／小草平ノ沢 | 6/26 | 伊藤幸(L),伊藤栄,福田 | 伊藤幸 |
| 19 | 講習 | 丹沢／滝郷沢左俣 | 6/27 | 工藤,山野昭,山野美,伊藤幸,久野,伊藤由<br>福田,南谷,伊藤栄,小林幸,阿出川,黒田,斉藤<br>田中,池田 | 田中 |

## 月刊 岩小舎　8 月号の予定

(2004 年 8 月 15 日発行)

【掲載予定】

□講習山行
- 岳嶺岩／A1トレーニング
- 岳嶺岩／夏山サバイバル
- 丹沢／水無川本谷・沖ノ源次郎沢下部
- 西丹沢／小川谷

□自主山行
- 笛吹川／ヌク沢左俣・鶏冠谷右俣
- 奥多摩／惣角沢
- 藤坂ロックガーデン　RCT
- 奥多摩／水ノ戸沢
- 丹沢／勘七ノ沢
- 奥多摩／シンナソー・ヒマヤゴ沢
- 前穂北尾根～奥穂～西穂縦走

□技術委員会企画
- 西丹沢集中／同角沢、女郎小屋沢　他

☆**原稿は 8 月 5 日締め切りです。**

発行　無名山塾(埼玉県山岳連盟所属)
住所　東京都豊島区南大塚 1-39-2-1F
電話　03-3941-3481
FAX　03-3941-3482
HP　http://www.sanjc.com/
編集長　山野美香
編集部　坂口理子・福田洋子・横川秀樹

□机上講座の予定(於：豊島区立勤労福祉会館、19:00～)
- 7 月 22 日(木)「テント山行の準備・パッキング・生活技術」
- 8 月 26 日(木)「山の天気と気象遭難」
- 9 月 30 日(木)「読図とルートファインディング」